

梅のつぼみがほころぶ季節となり、春の訪れが待ち遠しく感じます。

CPO-JP 会報 2月号をお届けいたします。

【理事長より年頭のご挨拶】

2015年明けましておめでとうございます。

新しい年が各位にとりましてより良い年になりますようお祈り申し上げます。



旧年師走の衆議院総選挙で与党が圧勝し、安倍政権は国民の信任を受けて向こう4年間政権を運営する運びとなりました。経済や国民生活の向上にとって政治の安定は必要条件です。二院制を採っている世界の先進国の中で、日本のように両院で与党が過半数を保持している国は稀有になりました。

アベノミクスによるデフレからの脱却、地方創生による国土の均衡ある発展と東北の再建、そして2020年のオリンピック成功に向けた取り組みなど、喫緊の政策課題に大胆に取り組む結果を出して欲しいものです。

弊機構も設立から丸3年になります。

欧米のコンテンツ産業の急速な進展と、韓国・中国が台頭する中で日本のお家芸ともいえるコンテンツ産業を維持発展させ、輸出産業としての役割を確実なものにしようと大見得を切って立ち上げました。

この間お陰様で会員・賛助会員も増えました。

機構の活動の柱である「コンテンツシティ構想」の実現に向けて先端技術の研究や経済産業省の委託事業にも取り組んできました。

札幌、仙台、岡山、沖縄などの自治体とも折衝を重ねました。

一方で予期せぬことも起こりました。クラウド技術の進展です。「コンテンツシティ構想」を再構築する必要に迫られました。

機構設立時に元国連ITU事務総局長の内海義雄顧問からクラウドに関する助言を得ておきながら対応できませんでした。

理事長として深く反省しお詫びいたします。

設立4年目となる今年は正念場だと認識しています。

▽「新コンテンツシティー構想」の実現に向けた筋道をつける、

▽多様な分野の会員が一つになって、

日本のコンテンツ産業の発展につながるビジネスモデルを確立する、

▽会員のコラボによる新規事業を開発するなど

事業委員会・技術委員会を中心に機構を挙げて成果を出していきたいと考えています。

各位におかれましては旧年に倍するご指導ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げ年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成27年1月吉日 理事長 秋 田 敏 彰

【技術委員会報告】

去る平成 27 年 2 月 14 日に日本工学院専門学校で行われたアニメーション・クリエイティブ・テクノロジーフォーラム(以下 ACTF)に関する報告です。

報告書はグラフィニカ安藤様から技術委員会に提出していただいたものの転載です。

アニメーション・クリエイティブ・テクノロジーフォーラム(ACTF)報告書

○参加企業・団体

日本アニメーター演出協会、株式会社ワコム、株式会社セルシス、TVpaint、ToonBoomAnimation、CACANi、旭プロダクション、りよーちも氏、神風動画 他

○参加人数:316 名(参加企業 95 社、フリーランス除く)

1. フォーラム趣旨

作画部門のデジタル化に関しての情報共有やソフトの実演

2. フォーラム内容

ケースメソッド:旭プロダクション、りよーちも氏、神風動画

メーカープレゼン:セルシス、TVpaint、ToonBoomAnimation、CACANi

パネルディスカッション:濱雄紀氏(旭プロダクション)、森田宏幸氏(JAniCA)、吉川綱樹氏(WHITE FOX)、吉邊尚希氏(神風動画)、りよーちも氏(ちものとアニメーション)、モデレーター／轟木保弘氏

3. 所見

ケースメソッドでは各社の特色が出た内容でした。特に神風動画の AdobePhotoShop のタイムライン機能を利用した作画は参考になりました。通常アニメの分業とは違い、ジェネラリストとしてデジタルの利点を生かしているのが興味深かったです。

メーカープレゼンでは各社の本気度が感じられました。自動中割り機能がある CACANi (<https://cacani.sg/>)はまだリリースしてまだ時間も浅く、機能的には実用まではまだもう少し掛かる印象ですが、自動中割へのアプローチ方法は面白く、将来的には期待したいソフトでした。

既存のソフトとしてはセルシスの ClipStudio (<http://www.clipstudio.net/>)にアニメーション機能が付くのが発表され、アニメーション制作ソフトが各社で強化されより使いやすく機能が強化される事が予想出来ます。その上でパネルディスカッションでもりよーちも氏が話していましたが、統一データのフォーマットが必要だと感じました。

現状ではベクターデータには対応していませんが PSD のようなフォーマットが良いのではないかと

思いました。汎用性が高く、レイヤー機能や AfterEffects との連携も出来るので良いかと思いません。

グラフィニカとしては現状のstylosに固執せず、様々なソフトを使用する場合によっては作品ごとにソフトを変えて使用するなど柔軟な対応が出来ると良いと思います。

以上

当日の様子や主催者によるレポートは JAniCA のサイトを御覧ください。

<http://www.janica.jp/course/digital/actf20150214.html>

【事務局より】

次回理事会は3月17日（火曜日）16:00より、IBM 様にて行います。
宜しく願いいたします。

ご意見・ご感想は下記の事務所までご連絡ください。

編集責任者 専務理事 野口 和紀

日本コンテンツ振興機構

〒180-0003 東京都 武蔵野市 吉祥寺南町 4-4-13 TEL:0422-35-3305 FAX:0422-70-3073